震災からの復興

伝える・繋がる（2015.4.2 仙台より F.N.）

震災から5年目に突入し、東北の復興が思うように進まない状況でも、あちこちに春を感じることができる暖かな日が多くなってきました。未来を築く子供たちのことを支援して私も5年目に入り、被災直後から見てきた子供たちの心の変化、大人たちの心の葛藤に触れるとき、支援してくれた高校生、専門学校生、それ以外の方たちの「想い」をできるだけ丁寧に「伝える」ということをしています。もちろん、被災地の支援を受けた側の様子も「伝える」ようにしています。実はこのことが、双方の人たちをより身近に感じ「繋がる」というその距離感が近くなっていくように感じます。「感謝」の気持ちというのは、被災地の人たちにはもちろんですが、支援した人たちもまた、そこから学び 「未来」を見つけてくれました。被災地の子どもたち、大人たちは支援してくれた多くの人たちに勇気をもらい、高校生、専門学校生たちは被災地に未来を感じることが出来たということ。「未来」はお互いの見えている中に必ずあるものだと、だれかが誰かの未来の中に刷り込まれていると感じることが出来て、小さな「繋がる」が生んだ「伝える」ことの大切さを学ばせてもらえたような気がします。

震災を伝えるものがいよいよ解体へ…（2013.10.2　仙台より　F.N.）

写真は南三陸町の防災庁舎跡。3階建の庁舎は震災後脚光を浴びました。ここから放送された防災無線を聞いて津波に流されることなく現在暮らしている人たちが沢山います。放送は2階の部屋から15mを超える波が襲いかかるその寸前まで続けられました。この庁舎で多くの命が失われましたが、同時に震災後のこの骨組だけになった庁舎を見るたびに自然災害の恐ろしさを感じずにはいられません。先ごろこの庁舎を「震災遺構」として南三陸町は遺すことを断念しました。小さな三陸の沿岸の小さな町で、そのほとんどが流出してしまった中で、この鉄の骨組だけになった庁舎を後世へ遺していくことの難しさを感じた決断でした。この庁舎はまもなく解体のための工事がスタートします。丸3年目のその日にはこの庁舎は姿を消していることでしょう。遺構としてモノがなくなっても、ひとりひとりがこれからの防災、減災のために心の中にこの庁舎を刻みこみ標としてもらいたいと思います。

「ものづくり」の未来…（2013.2.1　仙台より　N.F.）

写真は仙台市内の高校生が南三陸の幼稚園で手作りの「積木」をプレゼントしているところです。被災地の高校生たちからより小さな子供たちへの支援をすることは、今すぐに答えは出ないものの10年後くらいにはその答えがきっと「復興」という名のもとにその技術と英知を見ることができると信じています。こんな出会いがありました。石川県立小松工業高校の生徒さん、阪神淡路大震災のその日に生まれたというのです。「僕はたくさんの命が失われた日に無事にこの世に生まれてこられたことを感謝しなさいと小さなころから言われてきた…だからこの被災地の子供たちに支援したい」と…彼は18歳。阪神淡路のことを知る最後の学年。「人間力」を磨くための年齢になってきている高校生たち。こうして「ものづくり」は様々な形

で着地点を見出し、若い力を育てていけるのかもしれません。「復興」の原動力になるような「ものづくり」を願ってやみません。

被災地の今を伝える構築物（2012.11.2　仙台より　F.N.）

早いもので3.11から1年8か月近くが経とうとしています。津波の傷痕は今もこうして風雨にさらされています。津波浸水地域の構築物も朽ちてきて、この震災を後世に伝えていくためにいくつかの構築物を保存するか？しないか？で街が揺れています。写真は「石巻市立大川小学校」。錆びていく鉄の色にその時間の経過を感じ、黒板を見ると子供たちの元気な声が聞こえてきそうで胸が苦しくなりますね。「モノを作る」ということは、同時に安全性を考えていくことだと感じ、これを確立して利用してもらって完結なのだなぁと思います。この震災では全国のモノ作りを学ぶ工業高校生たちがさまざまな角度から「ものづくり」と「安全性」を考え取り組んでいます。被災地の構築物を見て「ものづくり」のこれからを考えてくれるチャンスになってくれるよう望んでいます。

賀城市の小さな復興（2012.9.3　多賀城市より　No.Ya）

今回ご紹介するのは、現在、宮城県多賀城市で開催しているソフトボールのリーグ戦についてです。このリーグ戦は、多賀城市の各地区で構成されたチームが対戦する戦いで、上は70代、下は10代と各年代が入り交じってのチーム構成で、勝ち負けも大切ですが地域の方々と交流する場として毎年開催されております。ところが、昨年は東日本大震災により多賀城市も甚大な被害を受け、とてもソフトボールができる状況（グランドは震災ゴミの集積場）ではなく、活動が中止となりました。しかし、7月になりリーグ戦を再開するとの連絡が届き、市内の小学校のグランドを借りて熱い戦いが始まりました。まだ近くのグランドには震災ゴミが残っていますが、少しでも前に進み、震災前の活動に戻ることが地元多賀城市の小さな復興になるとの思いで再開することとなりました。1年ぶりに集まったチームメイトとまた楽しくソフトボールができる喜びを感じ、今後も地域のみなさんと交流し、多賀城市のソフトボールを盛り上げていきたいと思います。

観光も少しずつ　復興へ…（2012.5.1　仙台より　N.F.）

桜前線も仙台を通り過ぎ、岩手、青森へ柔らかな春の陽射しとともに北上しています。いつもより遅い開花となりましたが、例年より寒い冬が長かったせいもあって、北国の人はその花便りを心待ちにしています。　さて、仙台・宮城観光キャンペーンとして復興の足がかりとなるようなイベントが続いています。
（公式HP http://www.sendaimiyagidc.jp/）5月は仙台で「青葉祭り」が開催されますし、8月には「七夕祭り」など大震災から1年余り経ちましたが、被災地のインフラ整備にはいささか時間がかかるということもあり、まずは「祭り」で心の復興をしていこうという想いが込められています。どうぞこの機会に宮城・仙台に足を伸ばしてみてはいかがでしょうか？

仙台発:Small Project (2011.11.11　F.N.)

あの3.11大震災から8ヶ月が経ちました。碧く清んだ11月のある日、まだ瓦礫の中にある東松島市。航空自衛隊松島基地の体育館を会場に大震災で津波を目の前で見てきた5歳・6歳の子供たちとのイベントを開催しました。子供も大人も、身体を動かし、大きな声で歌を歌い、楽しんでくれればと企画段階からひとりで作り上げてきて…400名の子供たちと協力してくれた大人たち、すべての人たちに笑顔が溢れました。子供たちは心の痛みをうまく言葉にできないのでこうして身体を動かすことがＰＴＳＤ軽減への近道です。この小さなプロジェクトは沢山の「笑顔」を繋ぐことができました。Smile makes smile あなたの笑顔が誰かの笑顔を作れるように。